

【序章】

筆者がここでテーマとするのはサッカーにおけるチームワークである。そもそも自分自身が大学在学中の4年間サッカー部に所属し、チームワークの大切さというものを肌身に感じてきた。そして、これまでのこうした経験をこれからの競技生活にも活かせると考えている。サッカーはチーム対チームのスポーツであり、個人能力はもちろんのこと、チームワークの要素が極めて重要となる。

本論文の構成は最初にサッカーの起源と歴史を検討する。とりわけ、現代のルールが確立してくる歴史的背景に注目する。そして、現代サッカーにおいて選手に求められる能力、またチームにおける必要な要素とは何かをまとめ、チームワークの全体像を明らかにしたい。

【第一章】

学校教育を基盤にして形成されてきた日本のスポーツ観の特徴は武士的勝負観や武士的モラルを重視する点にある。それは現代に至るとチームワークの重要性という形で表れてきた。本章は、チームワークが必要なのかということから始まり、チームワークとはなにかということを中心にチーム、クラブの在り方をまとめ、そんなチーム、クラブの育て方がある宮城県のクラブチームの例をもとに紹介した。そして、どのようにチームワークを生かすか。ただまとまっている仲が良いだけが、チームワークの善し悪しの基準ではないだろう。

何かが欠けるでもなく、一番大切なことは信頼関係を築くことであって、同じ目的に向かい合えるチームを作り上げることが大切だといえる。

【第二章】

近代スポーツは、しばしば軍隊をアナロジーとして説明される。イギリス近代において、スポーツは青少年の身体を訓練し、規格化し、規律や道徳を徹底してたたき込むことで、軍人として国家に資する人材を育成する役割を担われていた。しかし、十九世紀から二十世紀にかけて、そうしたイデオロギーは消失していく。

現代のサッカーに至るまでには様々な問題が起こるが、

それらは全て誰もが楽しめるサッカーへと生まれていく過程の中の出来事といえる。

現代サッカーの戦術の傾向では、個人技よりもチームワークが優先される。ここでは、現代サッカーの現状を分析し、現代サッカーにおける細かいポジションやフォーメーションがチームをうまく機能させるためにどういう効果を持ち得るかを検討した。

【結章】

本論文は、調査研究の結果や私の経験からサッカーにおけるチームワークがいかなるものかということをもとめた。チームワークというのはスポーツではもちろん、どのような集団であっても目標に向かって1つになり進むには必要不可欠であり、自分の能力をチームにいかすことによって更に自分の能力が生きてくるということもある。今回の卒業論文を通して、サッカーのおもしろさやチームワークの重要性が伝わればいいと思う。そしてなにより、それぞれが自分の責任をきっちりとこなしてチームワークが成り立っていること。サッカーなどのスポーツだけでなく、これからの人生を生きていくうえで、どのような集団でもチームワークが生かせるということを理解してもらいたい。

人間にとってのスポーツとは何なのかということ考えた場合、“スポーツは人間の持っている重要な文化財”ではないかと思う。この“スポーツは...”という言葉の代わりに“サッカーは...”という言葉を使っても、少しも違和感はない。なぜ、スポーツあるいはサッカーが文化なのか、それは人間が単に生命を維持するだけでなく、より充実した豊かな生活を送るためにそれらが創造されてきたからである。サッカーを見ること、そしてサッカーをやるのがどれだけ多くの人間に喜びを与えているかを考えれば、サッカーのプレーは「無形の文化財」と呼ぶにふさわしいといえる。そんなサッカーを、私はこれからも愛し続けたいと思う。